

第 1 回 館山市議会定例会会議録

(第 6 号)

1 平成4年3月25日(水曜日)午前10時

1 館山市役所議場

1 出席議員 26名

1 番 秋山 光章
3 番 島田 保
5 番 宮沢 治海
7 番 鈴木 順子
9 番 脇田 安保
11 番 山崎 雅己
13 番 榎本 春光
15 番 山中金治郎
18 番 日下 君敏
20 番 生稲 陸
22 番 福原 勤
25 番 流山源次郎
27 番 横溝 功

2 番 増田 基彦
4 番 斉藤 実
6 番 植木 馨
8 番 永井 龍平
10 番 庄司二三男
12 番 岩村 勝弘
14 番 小宮 利夫
17 番 鈴木 忠夫
19 番 川名 正二
21 番 神田 守隆
23 番 石井 昌治
26 番 辻田 実
28 番 飯田 義男

1 欠席議員 2名

16 番 鈴木 勝美

24 番 石井 輝久

1 出席説明員

市長 庄司 厚
収入役 渡辺 弘
総務部長 二通 英雄
経済部長 脇田 元始
水道課長 鈴木 信一

助役 小幡 清之
市長公室長 佐藤 輝雄
民生部長 佐藤 澄雄
建設部長 伊東 衛

教育委員会 福原 修
教育 長

教育委員会 伊藤 昌彦
委員 長

選挙管理委員会 加藤 利
委員 長

監査委員 鈴木 重司

監査事務局 島田 啓夫

1 出席事務局職員

事務局長 兵藤 恭一

事務局長補佐 土橋 康彦

書記 鈴木 哲

書記 鈴木 修一

書記 加藤 浩一

1 議事日程（第6号）

平成4年3月25日午前10時開議

日程第 1

議案第 9号 千葉県市町村公平委員会共同設置規約の一部
を改正する規約の制定に関する協議について

議案第10号 館山市畑地区に係る公共的施設の総合整備計
画を定めることについて

議案第11号 非常勤の特別職の職員に係る報酬及び費用弁
償に関する条例の一部を改正する条例の制定
について

議案第12号 館山市長、助役、収入役の給与及び旅費に関
する条例の一部を改正する条例の制定につい
て

議案第13号 館山市教育長の諸給与及び勤務条件等に関す
る条例の一部を改正する条例の制定について

議案第14号 館山市職員の育児休業等に関する条例の制定
について

議案第15号 館山市特別会計条例の一部を改正する条例の
制定について

議案第16号 館山市行政財産使用料条例の一部を改正する
条例の制定について

議案第17号 財産の取得について

議案第18号 財産の取得について

議案第19号 財産の無償譲渡について

議案第41号 平成3年度館山市一般会計補正予算（第7号）

議案第20号 館山市教育兼務職員の給与等に関する条例の
一部を改正する条例の制定について

日程第 2

- 議案第 2 1 号 館山市立幼稚園保育料及び入園料徴収条例の一部を改正する条例の制定について
- 議案第 2 2 号 館山市公民館条例の一部を改正する条例の制定について
- 議案第 2 3 号 館山市学習等供用施設の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の制定について
- 議案第 2 4 号 館山市勤労青少年ホームの設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の制定について
- 議案第 2 5 号 館山市婦人会館の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の制定について
- 議案第 2 6 号 館山市社会体育施設の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の制定について
- 議案第 2 7 号 館山市民センター条例の一部を改正する条例の制定について
- 議案第 2 8 号 館山市身体障害者家庭奉仕員派遣事業に関する条例の一部を改正する条例の制定について
- 議案第 2 9 号 老人家庭奉仕員派遣事業に関する条例の一部を改正する条例の制定について
- 議案第 3 0 号 館山市青年館の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の制定について
- 議案第 3 1 号 館山市消毒手数料条例を廃止する条例の制定について
- 議案第 3 2 号 館山市廃棄物の処理及び清掃に関する条例の一部を改正する条例の制定について
- 議案第 3 3 号 館山市国民健康保険条例の一部を改正する条例の制定について
- 議案第 3 4 号 館山市消防団条例の一部を改正する条例の制定について

- 議案第 4 2 号 平成 3 年度館山市国民健康保険特別会計補正
予算（第 3 号）
- 議案第 4 3 号 平成 3 年度館山市老人保健特別会計補正予算
（第 2 号）
- 日程第 3 { 議案第 3 5 号 館山市農業協力員設置条例の一部を改正する
条例の制定について
議案第 3 6 号 館山市漁港管理条例の一部を改正する条例の
制定について
議案第 3 7 号 館山市道路占用料徴収条例の一部を改正する
条例の制定について
議案第 3 8 号 館山市市営住宅の設置及び管理に関する条例
の一部を改正する条例の制定について
議案第 3 9 号 館山市都市公園条例の一部を改正する条例の
制定について
議案第 4 0 号 市道路線の認定及び変更について
- 日程第 4 { 請願第 3 号 ゆとり宣言に関する決議の請願書
請願第 4 号 朝鮮民主主義人民共和国との早期国交樹立促
進方要望に関する請願書
- 日程第 5 継続審査について
- 日程第 6 { 議案第 1 号 平成 4 年度館山市一般会計予算
議案第 2 号 平成 4 年度館山市国民健康保険特別会計予算
議案第 3 号 平成 4 年度館山市老人保健特別会計予算
議案第 4 号 平成 4 年度館山市ユースホステル特別会計予
算
議案第 5 号 平成 4 年度館山市学童災害共済事業特別会計
予算
議案第 6 号 平成 4 年度館山市下水道事業特別会計予算
議案第 7 号 平成 4 年度館山市水道事業特別会計予算
議案第 8 号 平成 4 年度館山市国民宿舎事業特別会計予算

日程第 7 議案第 44 号 平成 3 年度館山市一般会計補正予算（第 8 号）

日程第 8 議案第 45 号 人権擁護委員候補者の推薦について

日程第 9 議案第 46 号 館山市固定資産評価審査委員会委員の選任について

日程第 10 議案第 47 号 館山市収入役の選任について

日程第 11 県立地域文化ホール誘致対策特別委員会委員長報告

日程第 12 館山駅周辺整備調査特別委員会委員の補欠選任について

開 議 午前 10 時 25 分

◎議長（福原 勤君） 本日の出席議員数 26 名、これより第 1 回市議会定例会第 6 日目の会議を開きます。

議案の配付

◎議長（福原 勤君） 議案を配付いたします。

議案の配付漏れはありませんか。 — 配付漏れなしと認めます。

本日の議事はお手元に配付の日程表により行います。

議案の上程

◎議長（福原 勤君） 日程第 1、議案第 9 号乃至議案第 19 号及び議案第 41 号の各議案を一括して議題といたします。

総務委員会委員長報告

◎議長（福原 勤君） ただいま議題となりました各議案は、3 月 12 日の本会議において総務委員会に付託されたものであります。

よって、これより各議案に対する総務委員会における審査の経過並びに結果につき委員長の報告を求めます。

総務委員会委員長 日下君敏君。御登壇願います。

（総務委員会委員長 日下君敏君登壇）

◎総務委員会委員長（日下君敏君） ただいま議題となりました議案第 9 号

乃至議案第19号並びに議案第41号にかかわる総務委員会における審査の経過並びに結果について御報告申し上げます。

去る3月12日の本会議におきまして、本委員会に付託されました各議案につきまして17日及び18日の両日委員会を招集し、慎重に審査を行いました。以下、その質疑応答等、主なものについて申し上げます。

まず、議案第10号館山市畑地区に係る公共的施設の総合整備計画を定めることについてであります。事業にかかわる財源については、辺地対策事業債が100%充当され、その元利償還金については80%程度が地方交付税の基準財政需要額に算入されとの説明がありました。なお、この地域については、幅員、急カーブ等、交通安全対策上危険な箇所が非常に多いので、十分配慮されたいとの意見がありました。これに関連いたしまして、この地域は辺地の度数から見ると、県内で3本の指に入るほどの地域であり、特別な行政上の措置を講じて生活の基盤を安定させようとしている。しかし、その一方で都市計画税を課税しているが、都市計画税の恩恵に浴さないことは明らかであり、非課税とすべきではないかとの意見があり、これに対し当局は現時点では考えていないとの回答がありました。

次に、議案第11号乃至議案第13号の各議案を一括して審査いたしました。これらは非常勤特別職の報酬額、市長等の給料額の改定を行う議案であります。これら議案は採決前の討論において、現行の議員の報酬は地方交付税の基準から見て遜色ないし、かつ住民の十分な合意が得られる状況にはあるとは思えない。また、市長についても地方交付税の基準を上回っており、改正すべきではないとの反対意見がありました。一方、議員、市長の報酬等の改定は、特別職報酬等審議会が適当である旨の答申を出し、これを受けたものであり、反対する理由はないとの賛成意見がありました。

次に、議案第16号館山市行政財産使用料条例の一部を改正する条例の制定についてであります。本案については、まず具体的に本条例に基づく使用料の納付状況について説明を求めました。これに対して当局は、合計で237件で、条例改正による増収分は、道路占用料の改定に伴うものとして7万5,000円程度であるとの説明がありました。討論において反対討論として、本案

は消費税を転嫁する議案と理解する。これは消費税の定着を進めようとする内容を持っており、同意できないとする旨の意見がありました。一方、賛成意見としては、消費税の転嫁は、実際に法律が存在している中で定着を図っていくという時宜を得た改正であり、当然の改正であるとの意見がありました。

次に、議案第17号財産の取得、すなわち公共下水道終末処理場用地の取得についてであります。取得する土地に土壤汚染の問題はないかとの質疑に対しまして、当局から現在のところ有害物質等の調査はしていないが、既に議決されている土地については、すなわち既に出てある土地です。一部に油脂分離装置が設置されていたため、油等で汚染された箇所があった。その部分については撤去するという事で話が整っている。今回提案した土地については、そういう話は出ていないとの説明がありました。

次に、議案第18号財産の取得についてであります。本議案はウエルネスリゾートパーク計画用地の取得についてであります。購入計画地の地権者数及び面積についてただしたところ、地権者は136件、公簿上で約40.5ヘクタールであり、今回購入予定の面積はそのうちの24%であるとの説明がありました。さらに委員より、まだかなりの土地が残り、計画が大幅に変更になることはないかとの質疑があり、これに対し当局は、平成元年の基本計画を策定しようとするときから地元の4町内の区長等の連絡会、各区の説明会、アンケート調査を行ったりする中で、用地について十分地元の協力が得られているとの方向を見出している。これから個々の交渉になるが、主に平成4年度を中心として用地取得を進めていく予定であるとの説明がありました。

次に、計画案の区域設定と公簿上の計画用地に大きな差があるのではないかとの指摘に対しまして、当局は計画案の163ヘクタールについては、運動公園を含めた図面上の求積であって、公簿上は運動公園を除くと66.5ヘクタールであるとの説明がありました。また、緑地帯は計画では借地することになっているが、このことは現実に開発されてくると問題が起こってくる。買収をすべきではないか。また、市外の地権者について、買収価格が折り合わない土地が虫食い状態になるおそれはないかとの質問に対し、地元と良好

な関係で話が進んでいるが、借地という先々問題が出ることもあるので、今後検討していきたい。また、市外の地権者についても、地元と同じように協力を要請していくとの考えが示されました。

次に、議案第19号財産の無償譲渡についてであります。無償譲渡しようとする町内会等は法人化されているのか。また、固定資産税はどうなるのかとの質疑に対しまして、今回譲渡しようとする町内会はいずれも法人化されておらず、名義は町内会の二、三の代表者となっており、税金については減免されているとの説明がありました。

次に、議案第41号平成3年度館山市一般会計補正予算（第7号）であります。今回減額補正されている事業等について、減額の理由、補助金等の負担割合についての変更のあるなし、また今後の方針等について当局より詳細に説明を求めました。さらに、繰越明許費として3件の事業が今回提案されておりますけれども、完成予定時期についてそれぞれ説明がありました。

以上、審査の概要について申し上げます。採決の結果、付託を受けました議案第9号、議案第10号、議案第14号、議案第15号、議案第17号乃至議案第19号及び議案第41号については全会一致をもって、議案第11号乃至議案第13号及び議案第16号については、賛成多数をもってそれぞれ原案どおり可決すべきものと決しました。

以上、総務委員会委員長報告を終わります。

◎議長（福原 勤君） 以上で委員長の報告を終わります。

質 疑 応 答

◎議長（福原 勤君） ただいまの委員長報告について御質疑ありませんか。
— 御質疑なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

討 論

◎議長（福原 勤君） これより討論を行います。

通告がありますので、発言を許します。

26番議員辻田 実君。御登壇願います。

◎26番(辻田 実君) 議案第18号財産の取得につきまして、賛成の討論をいたしたいと思います。

この議案につきましては、ウエルネスパーク計画の土地取得ということでございますので、この土地取得によりましてリゾート計画の実践が具体的にスタートするということでもって歓迎するところでございますので、ひとつそういった面でこの土地取得には全面的に賛成をいたしたいと思うわけでございます。そして、この土地取得が現在千葉県ではリゾート計画の重点整備地区が11地区あるわけでございます。そのうちの3地区が館山市にあるわけでございまして、重点整備地区がこのような地方都市の中で3地区もあるということは、全国でもって例がないわけでございまして、館山市はこのリゾート計画に非常に大きな夢を託しているわけでございまして、これを早期に実現して、新しいリゾート都市を建設しなければならないわけでございまして、そういった面で私は4点についてひとつ要望意見を述べさせていただきたいと思うわけでございます。

今までどちらかという、このリゾート計画につきましては、議会に対してもその内容を余り明らかにされてきませんでした。それは土地取得をめぐるなかなか困難になると、こういうようなことが大きな理由であったわけでございますけれども、今回のこの土地購入によって、買収面積のほぼ24%が取得されるわけでございまして、さらに40%程度のものがこれによって取得達成できるわけでございます。委員会の中ではこの数年の間にほぼおおむねこの土地が買収ができるということでございますから、そうした心配がないわけでございまして、これからこの構想を進めている上については、もう少し議会と胸襟を開いて、具体的に検討し進めるようにしていただきたいと、このことを第1点要望するわけでございます。

それから2番目に、これまでも本会議、常任委員会の中でもって論議されてまいりましたけれども、土地買収に既に入って40%近くの土地がもう買収に入っている段階まできているわけでございますから、したがってウエルネス構想の具体的な計画というのですか、どういうものがどうしてできて、

何年ごろにはどういう形でオープンされるかと、こういうふうな問題、そして第三セクターの問題、こうした問題はかなり具体的にやはり示されなければならないと思います。これらについては、都市協会に対して調査委託がなされておりますけれども、そうした面についての基本計画、そういうものがまだ十分とは言えない面があるわけでございまして、これは土地買収と絡んで、かなり隔たりがあるような感じがするわけでございまして、そういう点におきましては、このウェルネス構想がいつごろ、どういう形でもって、どういうものがどうしてできていくんだということをやっぱり日程的なスケジュールの中でもって明らかにしていってもらいたい。同時に予算はどのぐらいなのかということも、かなり明確にしていく中で、計画を進めていただきたい。もうその段階へ入っておると。むしろそれらが出てくる中で今回の土地買収ということが進められるのが妥当であったかと思えますけれども、後手になったような感がありますから、この点についてはひとつ執行部といたしましても、早急にこの計画をさらに具体化し、明確にし、そして議会はもちろん市民の全体の協力をいただくような方向でひとつ努力をしていただきたいというふうに思うわけでございます。

3 番目には、県の文化ホールが誘致されたわけでございまして、非常に歓迎するところでございます。これは一般通告質問の中等でも論議されたわけでございますけれども、このウェルネス構想の中に入れることは困難だということを言われておりましたけれども、しかしながらこのウェルネス構想の中には音楽ホールの設置というのがアウトラインにしても入っているわけでございます。こういう中でもって音楽ホールを中心としたところの今度は文化ホールが来て、それがこのウェルネスの目玉にならないということは、非常に私は消極的過ぎるんじゃないかと思えます。このようなことでもって、県立の文化ホールをそういった中にできないと、市としてちゅうちょするようなことであれば、ウェルネス構想、さらにはリゾート構想というのは、民間資本を導入してやるわけでございますから、市がびびるようなリゾートなり、ウェルネスであっては、民間が出てくるはずがないわけでございます。

そこのところを十分考慮しながら、やはり今ウェルネスというとびんと

こないかわかんないけれども、県立の文化ホールを持って行って、それ拠点にしてああそこ今度立派になると、最適地だというようなリゾート地、ウェルネスパークをつくり上げるということが私は大切ではないかと思います。そういう面について私はまだ場所、その他は決定しておらないし、ことしの予算で調査費が計上されるわけでございますから、そうした中でもってやはり県立文化ホールはウェルネス構想のやはり1つの柱として検討を加えていただくことを、どうなるかは別といたしまして、そういうものも十分検討していただくことを私は要望をいたしたいというふうに思います。

それから4番目には、やはり館山市は先ほど申したように、リゾートで立つわけでございます。3つの重点地域があります。このウェルネス構想を入れますと4つでございます。この占める土地の面積、ウェートというのは館山市の半分以上のものがいってしまうと。したがいまして、これが本当に実現されていくということになれば、本当にというか、本当に実現させなきゃいけないわけですけど、実現の暁には館山はリゾート都市になることは明らかでございます。これが目標のように達成できれば、私は日本一のリゾート都市になるだろうし、これは世界に名だたるリゾート都市になることは明らかでございますから、そういう意味でもって真剣にやはり取り組んでもらいたい。これは悠長なことでもって、10年とか20年先ということじゃなくて、日進月歩のこの時代でございますから、やはり早急にこのリゾート実現に努力してもらいたい。そのためにはまず第1にウェルネスパークを市が中心でやるわけですから、ここが先導しなければ他の3つのリゾートもなかなか腰が上がらないわけでございますから、そういう面をわきまえて、市のペースからいきますと、非常に先が長いような構想でございますけれども、この土地取得というものができたわけでございますから、したがいましてこれからはそういった期間を短縮して、できるだけ早い機会にそうしたリゾート都市館山が実現されるように、このウェルネスパークの土地収容が起爆剤になることを祈念いたしまして、この議案に対して賛成をいたしたいと思いますので、ひとつよろしく願いたいと思います。

◎議長（福原 勤君） 以上で辻田 実君の討論を終わります。

以上で通告者による討論を終わりますが、通告をしない議員で討論はありませんか。 — 討論なしと認めます。よって、討論を終結いたします。

採 決

◎議長（福原 勤君） これより採決いたします。

採決は分割して行います。

まず、議案第9号及び議案第10号について一括して採決いたします。

各議案についての委員長の報告は原案可決であります。

各議案を委員長の報告どおり可決することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎議長（福原 勤君） 御異議なしと認めます。よって、各議案は原案どおり可決されました。

次いで、議案第11号について起立により採決いたします。

本案についての委員長の報告は原案可決であります。

本案を委員長の報告どおり可決することに賛成の諸君の起立を求めます。

（賛成者起立）

◎議長（福原 勤君） 起立多数であります。よって、本案は原案どおり可決されました。

次いで、議案第12号、議案第13号について一括して起立により採決いたします。

各議案についての委員長の報告は原案可決であります。

各議案を委員長の報告どおり可決することに賛成の諸君の起立を求めます。

（賛成者起立）

◎議長（福原 勤君） 起立多数であります。よって、各議案は原案どおり可決されました。

次いで、議案第14号及び議案第15号について一括して採決いたします。

各議案についての委員長の報告は原案可決であります。

各議案を委員長の報告どおり可決することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎議長（福原 勤君） ご異議なしと認めます。よって、各議案は原案どおり可決されました。

次いで、議案第16号について起立により採決いたします。

本案についての委員長の報告は原案可決であります。

本案を委員長の報告どおり可決することに賛成の諸君の起立を求めます。

（賛成者起立）

◎議長（福原 勤君） 起立多数であります。よって、本案は原案どおり可決されました。

次いで、議案第17号、議案第18号、議案第19号、議案第41号について一括して採決いたします。

各議案についての委員長の報告は原案可決であります。各議案を委員長の報告どおり可決することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎議長（福原 勤君） 御異議なしと認めます。よって、各議案は原案どおり可決されました。

議案の上程

◎議長（福原 勤君） 日程第2、議案第20号乃至議案第34号、議案第42号及び議案第43号の各議案を一括して議題といたします。

文教民生委員会委員長報告

◎議長（福原 勤君） ただいま議題となりました各議案は3月12日の本会議において文教民生委員会に付託されたものであります。よって、これより各議案に対する文教民生委員会における審査の経過並びに結果につき委員長の報告を求めます。

文教民生委員会委員長永井龍平君。御登壇願います。

（文教民生委員会委員長永井龍平君登壇）

◎文教民生委員会委員長（永井龍平君） ただいま議題となりました議案第20号乃至議案第34号、議案第42号及び議案第43号にかかわる文教民生委員会

における審査の経過並びに結果について御報告申し上げます。

去る3月12日の本会議におきまして、本委員会に付託されました各議案につきまして、18日委員会を招集し、慎重に審査を行いました。以下、その質疑応答等、主なものについて申し上げます。

まず、議案第21号館山市立幼稚園保育料及び入園料徴収条例の一部を改正する条例の制定についてであります。入園料の徴収状況について説明を求めましたところ、安房郡市内では徴収しておらず、県内では公立幼稚園を設置している21市のうち12市が徴収しているとの説明がありました。なお、保育料と入園料を合計した保護者の負担については、21市のうち10番目であるとの説明がございました。さらに、市民とすれば近隣の市町村の状況が1つの判断の基準になり、その点から余り大きな負担の差が出るのでは適当ではないのではないかと意見に対し、確かに保育料、入園料は安房郡市内の比較では高くなっているが、館山市の人口規模から見て、10園を設置しているということは、幼稚園教育に力を入れているということで、現在の実態から見ればそう大きな負担をかけているとは思っていない。国の基準に従って考えていきたいとの説明がありましたが、再度近隣市町村になるべく近づけるような方向で努力されたいとの意見がありました。討論において、入園料は安房郡市では徴収していないこと。また、かなりの負担になる金額であるので、今後徴収しない方向で検討されたいとの反対意見がありました。

次に、議案第22号乃至議案第27号の各議案について審査を行いました。これはそれぞれの施設の使用料に消費税相当分を上乗せしようとするものでありますが、委員より各施設の使用状況等について質疑がありました。討論において、消費税そのものに反対する立場から、各議案について反対するとの意見がありました。

次に、議案第32号館山市廃棄物の処理及び清掃に関する条例の一部を改正する条例の制定についてであります。一般廃棄物の収集回数を1回から3回にふやすことについての質疑に対し、現在約1,400カ所のステーションがあり、原則として1ステーション10世帯から20世帯の単位となっている。これらは町内会長等との要請に基づいて収集を行っており、1回から3回に収

集回数をふやしてくれという要請があれば、市としては措置を講じていくとの説明がありました。関連して、廃棄物の処理の現状、また中長期的な取り組みについて説明を求めましたところ、まず現状について可燃ごみについては、古紙は別途回収することにより、前年度に比べて1.1%ほどの減少、粗大ごみについては5%から6%の増加、生し尿については浄化槽設置の増加に伴い、二、三%の減少、浄化槽汚泥については7%程度の増加。さらに、最終処分場については、現在64%程度の埋め立てとなっている。今後についてはまだ清掃センター、衛生センターとも余裕があり、最終処分場については縁堤のかさ上げを図っていくとの説明がありました。なお、ごみ収集に当たっても引き続き減量化と再資源化に取り組んでいくとの説明がありました。本議案についても討論において、消費税関連の議案であるので、反対するとの意見がありました。

次に、議案第33号館山市国民健康保険条例の一部を改正する条例の制定についてであります。今回助産費が24万円に引き上げられておりますが、近隣の状況はどうかとの質疑があり、平成4年度国において基準額の引き上げを予定している関係で、近隣市町村とも新年度は同額であるとの説明がありました。

次に、議案第34号館山市消防団条例の一部を改正する条例の制定についてありますが、近隣市町村との比較について質疑があり、安房郡市は県下でも非常に高く、それと比較すると少し低い、県下の平均また人口類似市との比較では、本市は高いとの説明がありました。以上が質疑応答等の概要であります。

採決の結果、議案第20号、議案第28号乃至議案第31号、議案第33号、議案第34号、議案第42号及び議案第43号の各議案については全員一致をもって、議案第21号乃至議案第27号及び議案第32号の各議案については、賛成多数をもってそれぞれ原案どおり可決すべきものと決しました。

以上で文教民生委員会委員長報告を終わります。

◎議長（福原 勤君） 以上で委員長の報告を終わります。

質 疑 応 答

◎議長（福原 勤君） ただいまの委員長報告について御質疑ありませんか。
— 御質疑なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

討 論

◎議長（福原 勤君） これより討論を行います。通告がありますので、発言を許します。

26番議員辻田 実君。御登壇願います。

（26番議員辻田 実君登壇）

◎26番（辻田 実君） 私は、議案第26号館山市社会体育施設の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の制定について、反対の意見を申し述べたいと思います。

私は、個人的には賛成をいたしてもというふうに思いましたが、これまでの館山市議会の経緯、経過を見ていった場合に、この26号の社会体育施設に対するところの消費税の課税並びにその扱いについては、他の消費税関連とは異なったものを要すると私は思うわけでございまして、そうした点からこの議案については撤回してもらいたいというふうに考えておったわけでございますけれども、しかし上程されたからには反対の意思を明らかにしたいと思います。

まず、この議案をめぐるしましては、御案内のように昭和62年度の衆議院予算委員会におきましては、当時館山市長であった半澤良一氏が、全国の市長会を代表して自民党の推薦によるところの公聴会に出席いたしまして、消費税の賛成の演説をしたわけでございます。非常に反響を呼んだわけでございます。そして、この消費税法案が成立いたしまして、その年の3月議会に消費税関連法案が館山市議会に上程されたわけでございます。その館山市議会におきましては、半澤市長がこれほど国会へ出て行って消費税の値上げについては、地方自治体として財源を確保する面から必要であると、こういうことを強調しておったにもかかわらず、平成元年の館山市議会の3月議会では、それらのものが半澤さんの方針に基づきまして提案されたわけでございます。

館山市議会は、慎重審議をした結果、これらの法案は廃案になったわけ
でございます。館山市議会で、国で成立したものは。そして、その中から水道、
し尿、国民宿舎の消費税については、9月議会で再提案をされて、承認され
て、現在に至っているという経緯があることをまず1点私は承知していただ
きたいと。そして、半澤市長自身、あれだけ消費税については国会でもって
証言しておった方でございます。確固たる自信を持っておりました。しかし
ながら、この議会の討論の中でもって名答弁をされたわけでございます。消
費税そのものについては問題ないけれども、しかし今回の消費税については、
できの悪い法律であるということを明らかにいたしまして、これが非常な反
響を生みまして、私はこの答弁というのは、私の長い議員生活の中でもって
最も光った名答弁だろうというふうに思っているわけでございますけれども、
も、生涯忘れることのできない言葉であるわけでございますけれども、その
できの悪い法律であるので、教育並びに市の公共施設に対しては課税するこ
とはしないということでもって見送ったわけでございます。そして、今日ま
で今回提案されましたところの関連の一連の消費税法案というのは、棚上げ
されて今日に至っているということでございます。このことを私は踏まえな
きゃならないと。多分今回のものについては、自治省の方から財政指導によ
りまして消費税を課せるようにという文書が来たので、それをやはり国の指
導に従って提案されたのかわかりませんが、平成元年の議会において
は、こうした経緯がなされて、そしてこの教育施設また市の公共施設に対
しては課税をしないということで半澤市長も折れたわけございまして、それ
を寝た子を覚ますような形でもって今回提案されることについては、非常
に私は心外であるし、またこうしたことは私は軽率に感じざるを得ないとい
うふうに思うわけでございます。

しかしながら、私は一步譲りまして、教育費以外の消費税については、悪
法といえども法律は法律ということわざがございますので、この点について
私は一步譲歩いたしまして、妥協はいたしたいと思っております。したが
いまして、この26号以外の消費税関連については、法律は法律であるので
もって、それらの議案に対しては賛成はいたしますが、26号はこれはそれら
の一般消費税

の導入ということとは違った面が2つあるわけでございます。1つは、義務教育の子供を対象にしたところの小中学校の生徒を対象にして、この消費税が課税されているということです。これはやはり義務教育国庫負担の原則、そういう面からいっても私はかなり無理があるというふうに思うわけございまして、消費税をここまで小中学生までは対象にしてかけていくということは、さきの議会から今日に至る経過までいって、ちょっと私は不自然でもあるし、やるべきじゃないと。まして市長、教育長は教育出身者であるから、そういう点は十分わかっていると思うわけございするけど、市民の意向もやはりそうであろうと思うので、この点についてはひとつ私は十分な配慮をしてもらいたかったと。

それから2番目には、300円未満の切り捨てをするということでございするから、団体使用、合宿所の使用については、小中学生を対象にして消費税を300円以上の使用料なものですから、これについては課税をしています。しかしながら、個人使用のものについては、250円ですから課税していません。しかしながら、実際に使用した場合には、2時間で250円ですから、4時間使った場合には500円になるわけです。そうすると払うときは500円払うんですけども、この500円のものについては、課税されないと。2時間未満のものについては課税されないということになるから、伝票を2回切ればいざ知らず、2時間たったら一度やめて、もう一度今度泳ぎ直すということであればいいんですけど、通算して領収書を500円発行していながら、そしてその500円に対しては課税をしないと。しかしながら、他の500円のものについては、小中学生であっても消費税を課していくという、こういう矛盾、これこそ半澤市長が言われたところのできの悪い法律の最たるしわ寄せがここに出てきているんじゃないかと。この調整をなぜ館山市がし切れなかったのか。この点について私はちょっと残念に思うわけございまして、税という神聖なものですから、慎重にしなきゃならない。特に今回の場合には義務教育の生徒に対して課税するものでございます。

市長は答弁の中でもって、義務教育といえども、これは社会教育の面で行われるものなので、これは自己負担していただかなければならないというこ

とを言われましたけれども、しかしながらそういう面は側面は持っているかもわからない。しかしながら、子供は国の宝であって、子供の教育に対しては、非課税、または国や地方自治体でもって擁護して育てていくと、共通の財産として教育は扱うべきであって、そういう面からいって、この法律は非常に矛盾が大きい。矛盾の最たるものがこの小中学生のプール使用、それから館山の市民運動場、西岬の体育館の利用について、国が言ったからということでもって課していると。これは明らかにやっぱり誤りであって、誤りであるものは正すのが政治であり、また市政のあり方だというふうに思うわけでごさいますて、ほかの消費税について私は百歩譲りますけれども、しかしこれは今言ったような矛盾がありますので、ぜひ撤回してもらいたい。これは庄司市長の経歴からいっても、こういうことが国で言われたからはい通しますということについては、私以上に耐えがたいものは持っておると思いますけれども、しかしそこは市長という立場と議員という立場の違いでもってこうせざるを得なかったかもわかりませんが、それは英断をもって私はやっていただきたいと、こう思ひまして、この法案については他の消費税関連とは離して私は反対をする次第でございますので、ひとつ皆様方の御賛同と御理解をいただきたいと思います。

◎議長（福原 勤君） 以上で辻田 実君の討論を終わります。

以上で通告者による討論を終わりますが、通告をしない議員で討論はありませんか。— 討論なしと認めます。よって、討論を終結いたします。

採 決

◎議長（福原 勤君） これより採決いたします。

採決は分割して行います。

まず、議案第20号について採決いたします。

本案についての委員長報告は原案可決であります。

本案を委員長の報告どおり可決することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎議長（福原 勤君） 御異議なしと認めます。よって、本案は原案どおり

可決されました。

次いで、議案第21号、議案第22号、議案第23号、議案第24号、議案第25号について一括して起立により採決いたします。

各議案についての委員長の報告は原案可決であります。

各議案を委員長の報告どおり可決することに賛成の諸君の起立を求めます。

(賛成者起立)

◎議長(福原 勤君) 起立多数であります。よって、各議案は原案どおり可決されました。

次いで、議案第26号について起立により採決いたします。

本案についての委員長の報告は原案可決であります。

本案を委員長の報告どおり可決することに賛成の諸君の起立を求めます。

(賛成者起立)

◎議長(福原 勤君) 起立多数であります。よって、本案は原案どおり可決されました。

次いで、議案第27号について起立により採決いたします。

本案についての委員長報告は原案可決であります。

本案を委員長の報告どおり可決することに賛成の諸君の起立を求めます。

(賛成者起立)

◎議長(福原 勤君) 起立多数であります。よって、本案は原案どおり可決されました。

次いで、議案第28号、議案第29号、議案第30号、議案第31号について一括して採決いたします。

各議案についての委員長の報告は原案可決であります。

各議案を委員長の報告どおり可決することに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

◎議長(福原 勤君) 御異議なしと認めます。よって、各議案は原案どおり可決されました。

次いで、議案第32号について起立により採決いたします。

本案についての委員長の報告は原案可決であります。

本案を委員長の報告どおり可決することに賛成の諸君の起立を求めます。

(賛成者起立)

◎議長(福原 勤君) 起立多数であります。よって、本案は原案どおり可決されました。

次いで、議案第33号、議案第34号、議案第42号、議案第43号について一括して採決いたします。

各議案についての委員長の報告は原案可決であります。

各議案を委員長の報告どおり可決することに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

◎議長(福原 勤君) 御異議なしと認めます。よって、各議案は原案どおり可決されました。

議案の上程

◎議長(福原 勤君) 日程第3、議案第35号乃至議案第40号の各議案を一括して議題といたします。

建設経済委員会委員長報告

◎議長(福原 勤君) ただいま議題となりました各議案は、3月12日の本会議において建設経済委員会に付託されたものであります。よって、これより各議案に対する建設経済委員会における審査の経過並びに結果につき委員長の報告を求めます。

建設経済委員会委員長岩村勝弘君。御登壇願います。

(建設経済委員会委員長岩村勝弘君登壇)

◎建設経済委員会委員長(岩村勝弘君) ただいま議題となりました議案第35号乃至議案第40号にかかわる建設経済委員会における審査の経過並びに結果について御報告申し上げます。

去る3月12日の本会議におきまして、本委員会に付託されました各議案につきまして、16日委員会を招集し、慎重に審査を行いました。以下、その質疑応答等主なものについて申し上げます。

まず、議案第35号館山市農業協力員設置条例の一部を改正する条例の制定についてであります。今回の改正は、農業協力員の報酬額を改定するものでありますが、関連して協力員の選任について、また仕事の内容について説明を求めましたところ、選任に当たっては、集落から推薦のあった者を市で委嘱しており、特に農業をやっている人とは限らない。仕事については、現在は転作関係が主で、年に2回の会議を行い、それによって面積の割り振り、未達成の場合の指導をしている。そのほか集落によっては、資材交付、小規模事業の申請、災害時の報告等をお願いしているとの説明がありました。

次に、議案第38号館山市市営住宅の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の制定についてであります。新たに建設された真倉市営住宅に関連するものでありますが、大賀市営住宅の建てかえをするために、大賀市営住宅の入居者を移していくとの答弁が以前なされていたが、入居申し込みの状況はどうであったか説明を求めましたところ、締め切りまでに45件の入居の申し込みがあり、そのうち8件が大賀の市営住宅関係のものであった。入居者の選考に当たっては、その点を考慮に入れていくとの説明がありました。なお、1戸当たりの面積は70.84平米、駐車場は1戸に1台のスペースを確保してあるが、集会施設については、ほかの市営住宅との均衡もあり、現在のところ設置していないとの説明がありました。

次に、議案第40号市道路線の認定及び変更についてであります。今回認定及び変更をしようとする道路の状況等について詳細に説明を求めるとともに、関連して私道舗装の助成についてその要件の枠を広げられないかとの要望に対し、戸数等の要件について他市の状況を勘案しながら、前向きに検討していきたいとの回答がありました。以上が質疑応答等の概要であります。

採決の結果、付託を受けました議案第35号乃至議案第40号の各議案につきましては、いずれも全員一致をもって原案どおり可決すべきものと決しました。

以上で建設経済委員会委員長報告を終わります。

◎議長（福原 勤君） 以上で委員長の報告を終わります。

質 疑 応 答

◎議長（福原 勤君） ただいまの委員長報告について御質疑ありませんか。
— 御質疑なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

討 論

◎議長（福原 勤君） これより討論を行います。
通告はありませんでした。討論はありませんか。 — 討論なしと認めます。
よって、討論を終結いたします。

採 決

◎議長（福原 勤君） これより採決いたします。
採決は分割して行います。
まず、議案第35号、議案第36号、議案第37号、議案第38号について一括して採決いたします。
各議案についての委員長の報告は原案可決であります。
各議案を委員長の報告どおり可決することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎議長（福原 勤君） 御異議なしと認めます。よって、各議案は原案どおり可決されました。

次いで、議案第39号について起立により採決いたします。
本案についての委員長の報告は原案可決であります。
本案を委員長の報告どおり可決することに賛成の諸君の起立を求めます。

（賛成者起立）

◎議長（福原 勤君） 起立多数であります。よって、本案は原案どおり可決されました。

次いで、議案第40号について採決いたします。
本案についての委員長の報告は原案可決であります。
本案を委員長の報告どおり可決することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎議長（福原 勤君） 御異議なしと認めます。よって、本案は原案どおり可決されました。

請願書の上程

◎議長（福原 勤君） 日程第4、請願第3号及び請願第4号の各請願を一括して議題といたします。

総務委員会委員長報告

◎議長（福原 勤君） ただいま議題となりました各請願は総務委員会に付託され、継続審査に付されていたものであります。よって、これより各請願に対する総務委員会における審査の概要につき、委員長の報告を求めます。

総務委員会委員長日下君敏君。御登壇願います。

（総務委員会委員長日下君敏君登壇）

◎総務委員会委員長（日下君敏君） ただいま議題となりました請願第3号及び請願第4号にかかわる総務委員会における審査の結果について御報告申し上げます。

両請願については、平成3年9月議会において本委員会に付託され、その後継続審査となっていたものであります。審査の結果、請願第3号ゆとり宣言に関する決議の請願書については、全員一致をもって採択するものと決しました。

次に、請願第4号朝鮮民主主義人民共和国との早期国交樹立促進方要望に関する請願書については、賛成少数で採択しないものと決定いたしました。

以上、御報告申し上げまして、総務委員会委員長報告を終わります。

◎議長（福原 勤君） 以上で委員長の報告を終わります。

質疑応答

◎議長（福原 勤君） ただいまの委員長の報告について御質疑ありませんか。— 御質疑なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

討 論

◎議長（福原 勤君） これより討論を行います。

通告はありませんでした。討論はありませんか。—— 討論なしと認めます。
よって、討論を終結いたします。

採 決

◎議長（福原 勤君） これより採決いたします。

採決は分割して行います。

まず、請願第3号ゆとり宣言に関する請願書について採決いたします。

本請願についての委員長の報告は採択するであります。

本請願を委員長の報告どおり採択することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎議長（福原 勤君） 御異議なしと認めます。よって、本請願は採択することに決しました。

次いで、請願第4号朝鮮民主主義人民共和国との早期国交樹立促進方要望に関する請願書について、起立により採決いたします。

本請願についての委員長の報告は採択しないであります。

本請願を委員長の報告どおり採択しないことに賛成の諸君の起立を求めます。

（賛成者起立）

◎議長（福原 勤君） 起立多数であります。よって、本請願は採択しないことに決しました。

日程の追加

◎議長（福原 勤君） お諮りいたします。ただいま採択されました請願書に附帯して、発議案第1号ゆとり宣言に関する決議についてが提案されました。この際、本案を日程に追加し、議題といたしたいと思ひます。これに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

◎議長(福原 勤君) 御異議なしと認めます。よって、本案を日程に追加し、議題とすることに決しました。

議案の上程

◎議長(福原 勤君) 発議案第1号ゆとり宣言に関する決議についてを議題といたします。

議案を配付いたさせます。

(議案配付)

◎議長(福原 勤君) 議案の配付漏れはありませんか。 — 配付漏れなしと認めます。

議案の朗読を願います。

(書記朗読)

◎議長(福原 勤君) 朗読は終わりました。

議案の内容説明

◎議長(福原 勤君) 提出者の説明を求めます。

(18番議員日下君敏君登壇)

◎18番(日下君敏君) 発議案第1号ゆとり宣言に関する決議について提案理由を御説明申し上げます。

本案はただいま採択されました請願の趣旨を体しまして、8名の賛成者を得て提出した次第でございます。満場の御賛同を賜りますようお願い申し上げます。提案理由の説明といたします。

◎議長(福原 勤君) 説明は終わりました。

質疑応答

◎議長(福原 勤君) これより質疑を行います。

御質疑ありませんか。 — 御質疑なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

委員会付託の省略

◎議長（福原 勤君） お諮りいたします。

本案については委員会の付託を省略いたしたいと思います。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎議長（福原 勤君） 御異議なしと認めます。よって、本案については委員会の付託を省略することに決しました。

討 論

◎議長（福原 勤君） これより討論を行います。

討論はありませんか。 — 討論なしと認めます。よって、討論を終結いたします。

採 決

◎議長（福原 勤君） これより採決いたします。

本案を原案どおり可決することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎議長（福原 勤君） 御異議なしと認めます。よって、本案は原案どおり可決されました。

継続審査について

◎議長（福原 勤君） 日程第5、継続審査についてお諮りいたします。

文教民生委員会に付託中の請願第5号義務教育教育費国庫負担制度堅持に関する請願書及び請願第6号第6次定数改善計画の早期策定に関する請願書について委員長から慎重審査の必要上、会議規則第104条の規定により閉会中の継続審査とされたいとの申し出がありました。

各請願を委員長から申し出のとおり閉会中の継続審査とすることに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

◎議長(福原 勤君) 御異議なしと認めます。よって、各請願は閉会中の継続審査とすることに決しました。

議長の報告

◎議長(福原 勤君) なお、この際申し上げます。

各常任委員会における陳情審査結果が報告されております。お手元に配付の印刷書により御了承願います。

議案の上程

◎議長(福原 勤君) 日程第6、議案第1号乃至議案第8号平成4年度一般会計及び各特別会計予算を一括して議題といたします。

予算審査特別委員会委員長報告

◎議長(福原 勤君) ただいま議題となりました各会計予算は、3月16日の本会議において特別委員会を設置し、付託されたものであります。

よって、これより本予算に対する予算審査特別委員会における審査の経過並びに結果につき、委員長の報告を求めます。

予算審査特別委員会委員長流山源次郎君。御登壇願います。

(予算審査特別委員会委員長流山源次郎君登壇)

◎予算審査特別委員会委員長(流山源次郎君) ただいま議題となりました議案第1号乃至議案第8号平成4年度館山市一般会計予算並びに特別会計予算に係る予算審査特別委員会におきます審査の経過並びに結果について御報告申し上げます。

去る3月16日の本会議において設置されました本委員会を19日招集し、各会計における予算につき慎重に審査を行いました。以下、委員会におきます質疑応答等整理いたしまして、その概要を御報告申し上げます。

まず、一般会計歳出であります。第2款総務費であります。諸費において、暴力団対策費補助金及び千葉県暴力団追放県民会議出捐金が計上されて

おります。本市は住みよい地域社会を建設するために、暴力追放都市を宣言しておるところであります。この暴力団対策費補助金の使途と暴力団新法が施行されたことによる市の取り組みについて説明を求めましたところ、暴力団対策費補助金については、昭和62年度から支出しておるもので、現在まで意識啓発のためにテレホンカードの作成、配付、ステッカーの作成、配付、暴力追放都市宣言3周年大会の開催をしてきている。平成3年度は暴力団新法についてわかりやすいパンフレットを作成、配付し、PRをしていく予定であり、さらに館山警察署管内の防犯協力会連合会においても新法施行を機会に大会を検討中であるとの説明がありましたが、新法が施行されたことに伴って、積極的なPRを行い、暴力団撲滅に一層の努力をされるよう要望いたしました。

次に、コミュニティセンター費に関連して、センター周辺の面積はどのくらいあるのか。さらに、以前そこに市役所の移転もあると聞いていたが、県立地域文化ホールの誘致がされた場合、移転が可能であるかどうかとの問いに対しまして、面積についてはコミュニティセンターの前が1万8,000平米、道路の右側が約2万4,000平米で、文化ホールについては現在県において調査費が計上され、平成4年度に基礎調査を行うことになっており、県がどのような位置に設定するか、県の動向を見ながら考えていく。現在市役所についての具体的な検討は行っていないとの説明がありました。

次に、第3款民生費であります。社会福祉総務費において、結婚相談業務委託料が計上されていますが、今までの実績等について説明を求めましたところ、相談員の方々に大変努力していただいているが、平成2年度は2組、3年度は3組の成立となっている。相談員同士の相談は月1回行っているし、さらに年1回館山市だけでなく、広域的な範囲で若人の集いを催しているとの説明がありました。さらに、相談員をふやす考えはないか質問しましたところ、今後相談員の方々とも相談をして検討をしていきたいとの考えが示されました。

同じく社会福祉総務費において、国民健康保険特別会計繰出金 9,504万 9,000円と国民健康保険特別会計保険基盤安定繰出金 3,161万 7,000円が計上

されておりますが、この内容について説明を求めましたところ、まず特別会計繰出金については、平成4年度から制度改正があり、国民健康保険特別会計の人件費相当額と助産費補助金相当額が一般財源化されたことにより、人件費相当額として4,950万9,000円、助産費補助相当額として1,936万円が、さらに従前の国民健康保険の財政安定化対策として2,618万が計上されている。また、保険基盤安定繰出金については、国保の構造問題のうち、低所得者に対する財政安定化支援として繰り出すもので、3,161万7,000円のうち、国が2分の1、県が4分の1、市が4分の1補助するものであるとの説明がありました。

次に、老人保健福祉計画については、本会議においても質問がされておりますが、新年度予算に予算措置がされていないことについて質疑がありました。本計画については、国から骨子が示された段階で、これから具体的に市町村と県が協議に入り、平成5年度で計画策定となるので、予算上人員の手当て等はしていないとの説明がありました。なお、計画の策定に当たっては、審議会的なものを設置して、住民の声を反映されたいとの意見がありました。

次に、老人福祉費において、老人性白内障眼内レンズ等費用助成費が計上されておりますが、眼内レンズの移植手術が保険適用になったことから、市の考え方について説明を求めましたところ、市としては保険適用になるまでのつなぎという考え方で計上したものであり、今後は保険で適用していただくが、保険適用にならないコンタクトレンズ、特殊眼鏡等については、市で助成していくとの説明がありました。

次に、第4款衛生費であります。保健衛生費において、館山准看護学校防音校舎建設費補助金として819万4,000円が計上されておりますが、この内容について説明を求めましたところ、館山病院の中にある館山准看護学校については老朽化し、さらに館山航空基地の騒音による教育効果の低下も著しいということで、鉄筋コンクリートづくり防音校舎に建てかえるに当たっての補助金で、全額防衛施設庁からの補助金であるとの説明がありました。

次に、第6款農林水産業費であります。新年度予算総額では、11.9%と高い伸び率を示しているにもかかわらず、農林水産業費については12.8%の減

少をしていることについて説明を求めましたところ、農業振興費については補助事業が大半を占める年度がある。前年度は布沼地区において花卉の鉄骨ハウスを建設したが、新年度はこの事業を除くとほぼ同額であって、ほかの事業については、前年度と同じように考えているとの説明がありました。

委員より、農業は大変厳しい状況に置かれておるので、将来の農政に対する行政の温かい誘導をお願いしたいとの意見がありました。

次に、農業委員会費において、農地違反転用防止パトロール報償金が計上されており、この内容については優良農用地の維持保全を図るため、農業委員により各地区をパトロールしているものであるとの説明がありましたが、市内に農地法の規定による転用許可等を受けずに、農地以外の目的に供しているなどの事例が見受けられるが、農業委員会としてどのような対応をしているのかとの質疑に対しまして、農業委員会会長と相談をし、勧告を含めて前向きに検討したいとの回答がありました。

次に、第7款商工費であります。リゾート法に基づく2つのプロジェクトは、本申請に間に合うのかどうかとただしましたところ、現在南たてやまマリパーク計画については、事前協議の最終段階に入っており、太陽海岸平砂浦計画については、3月11日に事前協議が終了したとの通知を県から受けている。本申請には計画用地の確保が必要で、まだその申請要件を満たす用地の確保に至っていないとの説明がありましたが、さらに委員より何としても本申請に間に合わせるためには、行政も積極的に応援しなければならないのではないかとの意見に対しまして、企業者からも行政に協力を要請する文書が来ており、市としても全庁的な体制をとって取り組んでいく旨の答弁がありました。

次に、第9款消防費であります。新年度予算に計上されている消防施設の設置予定等について説明を求めましたところ、防火水槽については2基、自動車購入2台、消火栓については新設33カ所であるとの説明がありました。

次に、第10款教育費であります。社会教育費において薪能委託料が計上されておりますが、取りやめになった薪能が復活されたことは文化向上の面から大変喜ばしいことであり、今後は小中学校の児童、生徒が鑑賞する機会を

検討したらどうかとの意見がありました。

次に、一般会計歳入であります。個人市民税が増加している中で、法人市民税が落ち込んでいる理由について質疑がありました。次に、利子割交付金1億6,000万円について説明を求めましたところ、預貯金のマル優制度の廃止に伴い、20%が分離課税され、そのうちの5%が道府県民税として徴収されている。さらに、そのうちの事務費5%を除いた5分の3が市町村に配分されている。今後の見込みとして金利等が下がってくることが予想されるので、今年度決算見込みより900万円減額したとの説明がありました。

次に、委員より歳入主体の事業計画予算ではなく、企画先行型の予算を編成すべきであるとの意見がありました。

次に、国民健康保険特別会計であります。一般会計において報告しましたが、従前国保税で負担していた国保会計の人件費の超過負担について、今年度制度改正により交付税措置がされることになれば、当然その分が保険税の引き下げにつながるのではないかと指摘に対しまして、平成4年度は大幅な医療費改定が予想されており、医療費改定の影響と老人保健拠出金の増等を考慮し、予算編成を行ったとの説明がありました。以上が質疑応答等の概要であります。

次に、討論を行いました。まず、一般会計予算について歳入に消費税の上乗せ分が計上されていること、市でうたっているスローガンが予算に反映されていないことから認められない。また、国民健康保険、老人保健特別会計については、国レベルの問題であるが、制度的に納得できない。ユースホステル、水道事業、国民宿舎の各特別会計については、消費税絡みの予算であるとして、反対するとの討論がありました。

次に、一般会計予算については、対前年度当初予算比11.9%の伸びで、国、県等に比較しても高く、積極予算と評価する。予算の中には上下水道等のビッグプロジェクトも組み込まれているだけでなく、文化面にも配慮がされている。国民健康保険については、厳しい状況の中で、税率を据え置いてきていることは、それなりに評価をする。消費税については、法律が施行されてから数年経過し、既に国民は認知している。さらに、スローガンは高くある

べきで、現実の予算と異なるのはやむを得ないとの理由から、新年度各会計予算に賛成するとの意見がありました。

採決の結果、付託を受けました議案第1号乃至議案第4号、議案第7号及び議案第8号の一般会計及び特別会計予算については賛成多数をもって、議案第5号及び議案第6号の特別会計予算については全員一致をもってそれぞれ原案どおり可決すべきものと決しました。

以上、本特別委員会における審査の概要につきまして御報告申し上げましたが、市当局におかれましては、今後の予算執行、行政運営に当たりましては、本特別委員会における要望、指摘事項等を十分に配慮されるよう要望いたしまして、予算審査特別委員会委員長報告を終わります。

◎議長（福原 勤君） 以上で委員長の報告を終わります。

質 疑 応 答

◎議長（福原 勤君） ただいまの委員長報告について御質疑ありませんか。
— 御質疑なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

討 論

◎議長（福原 勤君） これより討論を行います。

通告がありますので、発言を許します。

21番議員神田守隆君。御登壇願います。

（21番議員神田守隆君登壇）

◎21番（神田守隆君） 議案の第1号平成4年度館山市一般会計予算に反対の討論を行います。

新年度当初予算は、庄司市長にとって初めての本格的に手がけた予算ということになるかと思います。この予算では、市の各種使用料金に全面的に消費税を転嫁することとしています。消費税は既に定着したなどとしています。が、とんでもないことであります。消費税に反対し、その廃止を求める世論は依然として強力なものがあります。先日晒された大蔵省の資料によっても、この消費税が所得の低い世帯ほど負担率が高いことが改めて裏づけられまし

た。消費税導入と所得減税の結果、消費税との差し引きで減税となったのも年収 1,000万円以上ということでありました。減税の恩恵に浴したのは恐らく市内でも一握りの方にすぎません。圧倒的多数の市民は、この消費税で大増税となったのであります。まさに弱い者いじめの消費税であります。

今回の消費税の転嫁は、市が率先してこの弱い者いじめに加担することです。市長自身の答弁によっても、今回の消費税の転嫁による市財政の増収はわずか 180万円にすぎないではありませんか。地方政治は市民の暮らしを守ることが本来の仕事であります。こうした立場に立てば、今の市財政の現状でどうしても転嫁をしなければならないという理由はありません。現に消費税が実施されて以降も3年間にわたって転嫁をしてこなくても何らの問題はありませんでした。私は改めて消費税の廃止を主張するとともに、市自身が消費税を転嫁し、弱い者いじめに積極的に加担することに厳しく抗議いたします。

次に、新年度の地方交付税について、自民党政府は本来地方自治体共通の固有財源である地方交付税を 8,500億円も減額をしますが、この影響は館山市財政にも1億円規模になるものと考えられます。一応この減額分は後年度の地方交付税に加算するということではありますが、確実にその措置がされるという保証は全くありません。問題は、国が財源難を理由に、地方から財源をむしり取るということではなく、むしろ国自身がその財政を根本的に見直すことでもあります。特に世界各国が冷戦の終結のもとで大幅に軍事費を削減しているときに、日本だけは軍拡を進め、防衛費に4兆 5,518億円も注ぎ込むことなど、まず第一に見直すべきであります。拡大を続けてきた防衛費をわずか4年前の88年の水準に戻せば3兆 7,000億円でありますから、これだけでも 8,500億円の財源は出てくるのであります。自民党政府の地方交付税の特例減額に抗議いたします。

国有提供施設助成交付金、いわゆる基地交付金に関連をして、自衛隊館山基地を撤去し、その跡地の有効利用の検討を進めるよう主張いたします。既にソ連は崩壊し、戦後の国際政治の上でつくられた冷戦は終わりました。米ソの核対決のもとで、その第一撃でほとんど破壊できるという地上の基地に

比べて、海中深くどこにいるかわからない潜水艦は無傷のまま残る可能性が高く、核報復戦力として重要な役割を担っていました。したがって、常時敵潜水艦の居場所が突きとめられれば、第一撃で破壊することも可能となり、もはや潜水艦は核報復戦力としての重要な戦略的意義を失うことになります。海上自衛隊の最大の任務は、このソ連潜水艦の居場所を突きとめることでありました。このため海上自衛隊は対潜哨戒機P3Cを、実にアメリカ第7艦隊の3倍にもなる100機体制を維持しております。館山基地のヘリコプター部隊もこのP3Cと連動して、潜水艦の探査が中心任務となっていたのであります。もはや冷戦は終わりました。ソ連が崩壊した今、一体どこの国の潜水艦を監視しようというのでありましょうか。P3Cは1機117億円もいたしましたが、もはや巨大なスクラップになる可能性が大きくなりました。対潜ヘリコプターも不要であります。対潜ヘリコプター基地である自衛隊館山基地の役割も大きく変わる可能性が出てきたのであります。広大な館山基地はその活用の仕方によっては、館山市の発展と市民福祉に無限の可能性を持った土地であります。既に木更津市は木更津基地の移転とその跡地の有効利用の検討を市自身の方針としております。館山市としても、自衛隊館山基地の撤去とその跡地の有効利用の検討を市の方針とするよう強く主張いたします。

幼稚園の入園料の値上げに見られる市民への負担転嫁の政治姿勢は認められません。幼稚園入園料を8,000円から9,200円に値上げすることがありますが、そもそも市町村立の幼稚園で入園料を徴収していること自体が安房郡市では館山だけであります。県内の市の中でも約半分はその徴収をしていないというのが実態であります。徴収しているという12市の中でも、平成4年度に入園料の値上げを予定しているという市はわずか2市にすぎません。この値上げによる市の増収は、わずか47万9,000円にすぎません。この増収がなければ、市財政に影響が大きいという財政上の理由も全く成り立ちません。値上げをしなければならない理由はないのであります。あるのは、国の地方交付税基準が改定されたので、しゃくし定規にこれに合わせなければならないという見当外れの考え方だけあります。この考えが見当外れである

ことは、例えば近隣の市町村がそもそも入園料を徴収していないことからわかるとおり、地方交付税の基準はあくまでも地方交付税の配分を進めるための計算基準であり、具体的な住民負担のあり方を示すものではないのであります。

また、どうしても地方交付税の基準で負担を求めるのだとすれば、例えば市長の給与も、この地方交付税の基準で決めるべきということになります。現行月額78万7,000円の市長給与をこの交付税基準では68万4,000円でありますから、約10万3,000円ほど引き下げることになります。ところが、市長の提案はさらに81万7,000円に、月額3万円ほど引き上げるとの案でありました。市民に負担を求めるときには、あたかもそれが国の基準だからとして値上げをする。その一方で、自分の給与については、その基準が低くて都合が悪いとそれを無視して引き上げを図る。これではまさにつじつまの合わない話であります。市民にとって納得のいかない話であります。しかも市長給与の引き上げ幅3万円は、年額では約50万円ほどになりますから、入園料の値上げによる増収分にちょうど相当することになるのであります。

平成2年度の館山市決算では、財政調整基金で23億円、減債基金6億円、庁舎建設基金4億3,000万円など、市のため込んだお金は35億円にもなっています。いたずらに受益者負担の名のもとに、市民に公共料金の値上げで負担の増大を求めるべきではありません。地方交付税の基準による幼稚園入園料の値上げなど、論外であります。公共料金については、その一つ一つの住民負担のあり方について慎重な検討がされるべきであります。なお、くみ取り料金については、値上げを抑制するために、保全公社の累積債務の一部を市で負担をしたり、また保全公社のし尿処理料金を減免するなどの措置は、これまでの料金設定について受益者負担論の域を踏み出したものとして評価をいたします。

以上の点を主張して反対討論といたします。

◎議長（福原 勤君） 以上で神田守隆君の討論を終わります。

次、26番議員辻田 実君。御登壇願います。

（26番議員辻田 実君登壇）

◎26番（辻田 実君） 私は、議案第1号平成4年度館山市一般会計予算に対しまして、賛成の討論をいたしたいと思います。

ただいま特別委員会委員長からの報告がございましたように、市政におきましては、理想と予算の間に隔たりがあることはやむを得ないことである。それを前提にして承認をしたという報告がございましたけれども、私も同様その観点に立って賛成をするものでございます。今回の予算の中におきましては、スローガンと現実の予算との間の開きはかなりございますけれども、隔たりがあるからといって、これを全面否定する立場もあろうかと思ひます。またそのことは尊重しなければならないと思ひますけれども、しかしながらそうした中においても、積極的な、前向きな方向が見出せれば、これらを積極的に評価して、賛成していくことも一つの方法であるわけでございまして、私はそういう観点に立って6点の意見と4点の要望意見を申し上げまして賛成討論にかえたいと思ひますのでございます。

第1点は、館山市の一般会計歳入歳出予算の総額144億円は、前年度対比で11.9%の伸びであり、2年続きの2けたの伸びを高く評価するものでございます。2番目には、南房総広域水道企業団による事業の推進、さらには公共下水道と終末処理場の用地の確保並びに都市下水道の整備事業、さらにウエルネスリゾートパーク計画の用地の取得、そしてインダストリアルパーク計画の事業化等がこの予算に組まれているわけでございまして、この4大プロジェクトの事業の評価を高く評価するところでございます。そして私は、この大型プロジェクトの事業が所期の目的に向かって遺憾なく達成されることを要望いたしたいと思ひますのでございます。

3番目に福祉の面でございます。特別養護老人ホームのショートステイ、デイサービスを実施するための準備費が予算化されたことは評価いたしたいと思ひます。さらには、白内障眼内レンズ購入の補助金並びに予防接種の自己負担の廃止、これは積極性を評価いたしたいと思ひます。そして、高齢者働く会に貸与するワゴン車の購入をそれぞれ予算化した福祉面に対するところの積極性を私は評価いたしたいと思ひます。そして、これらの予算がさらに実りあるものになるために、一層の強化と充実を切望する次第でございま

す。 4 番目に庄司市長の唯一の目玉施策であると思われる広報の充実でございます。従来の予算の上に特別に今年度は 2,474 万円の委託料を計上いたしまして、そして広報の改善に努めるわけでございますけれども、この積極性については、私は前向きに評価をいたしたいと思うわけでございます。しかし、この広報は従来の広報と大きく内容、概要を変えております。このことに対して、市民の間には賛否両論の意見があることを十分認識されまして、広報の所期の目的が十分達成され、市民と市とのコミュニティのために役立てるようになることを希望いたしますところでございます。

5 番目には、先ほども委員長報告にございましたけど、薪能の復活、国際民族フェスティバルの継承を文化政策として取り上げたことについては、高く評価いたしたいと思うわけでございます。しかし、薪能も国際民族フェスティバルも、これまでは観光協会を中心に実施してまいりました。平成 4 年度からは教育委員会に移り、社会教育の面から取り組まれるわけでございますから、十分これまでの成果と反省の上に立って、この 2 つの事業が成功裏に推進されることを要望いたします次第でございます。

6 番目には、県立南地域文化ホールの誘致が決まりましたことは、館山市にとりまして非常に光栄なことであろうと思うわけでございます。久しぶりの快挙として高く評価するものでございます。これからこの文化ホールにつきましては、県との交渉が始まるわけでございますけれども、私は金のない館山市と財政の豊かな県の立場を十分わきまえて、館山市の財政負担が大きくならないように配慮をしていただきたい。その上に立って文化活動の成果が上がるように努力することを要望いたします次第でございます。

そして、ただいま委員長報告の中にございました中で、私は 1 点だけ非常に残念に思うのは、市役所の建設用地については、まだ具体的な検討がなされていないということが予算委員会の中でもって答弁されたように報告されました。これは私は非常に問題のある答弁だろうというふうに思うわけでございます。館山市の市役所を建設するために毎年 2 億円の基金を積み立てて既に 3 年になるわけでございます。市長は当時就任しておりませんけれども、あの積立金を積んで既に 6 億になろうという今日に至って、館山の用地につ

いて検討がなされていないということは、余りにも議会を無視した私は答弁であろうと思うわけでございます。私は、公式にも非公式にも市役所用地の候補として幾つか挙がっておること、それを前提にして土地買収が行われることは、この本会議場の中においても当局からの答弁を受けております。決定はしてないけれども、こういうものがあるということを、そうしたことを前提にして、あの積み立て基金条例というのが制定されて、既にスタートして3年をたっているわけでございます。その段階に来て、市役所用地について何らの検討もされてない。検討もされてないことについて、我々が2億円もことしの予算の中でもって積み立てて、承認していく。館山の財政上これは大変なことでございます。こうしたことがどういうことと言われたか、私はそこら辺について本音の部分をもってこれから対処してもらわなければ、今後こうしたところのただ単に議場におきますところのその場しのぎの答弁ということでもって解決されるようなことがあったんでは、非常に残念であり、この予算も十分発揮できない。私は市長と議員というのは本音で話し合って、困ることをお互いにとことん突き詰めて、そして前向きに物事を解決する方向でやっていかなければならぬと思うわけでございます。議員が質問したからと、言いわけ逃れするようなことでは、前進はないと思うわけでございます。この答弁を通じてそうした面についてはちょっと言葉が厳しいかわかりませんが、そうした面で本当に本音で話ししてもらいたい。それで私は市役所の用地について全く検討がなされていないなんていう答弁はあり得ないというふうに思っております。そのことを私は指摘をしておきたいというふうに思うのでございます。

以上6点については、私は高く評価いたしまして、これらの予算がこうした点について十分配慮しながら、その予算の目的を達成されることを祈念いたしまして賛成をいたす次第でございます。

そして、最後に4点について要望を述べたいと思います。この点については十分ひとつ配慮していただきたいと思います。第1点は、積極的な予算編成をしたことを評価しながらも、市民1人当たりの予算額は安房郡市でも最も低く、県全体から見ても、非常に悪いわけでございます。この点は十分に

市長も理解をして、補正予算等の中において、さらには来年度の予算編成については、大幅な改善をしていただきますことを要望をいたす次第でございます。

2 番目には、市道の整備、側溝の予算が昨年、一昨年と低迷をいたしております。予算審議の質疑の中で、当面の事業量が約10億円程度であるということが概算でございますけども、表明されたわけでございます。しかしながら、本年度の予算はその3分の1程度の額でございます。これでは市民の要望を十分に満たすわけにいきません。むしろ市民の不安が非常に高くなることは明らかでございます。したがって、地方交付税の算定、予算計上についても、若干の問題もあるようでございますので、これらを十分対処して、補正予算の中において市民の要望している道路、側溝の改修につきましては、一、二年のうちに解決できるように努力していただきますことを私は要望する次第でございます。

3 番目には、文化面の予算の伸びは率直に評価したいと思います。しかし、体育、スポーツ面の予算と取り組みはマンネリ化し、硬直しておると言わざるを得ません。私は、市長が政策としてスポーツ振興を高らかにうたい上げておるわけございまして、その隔たりはかなり大きなものになっておると思われま。もう許容の範囲を超えるところぎりぎりに来ているというふうには私は判断をしているわけでございます。そうした面で、今後の予算の面で、具体的に伸ばしていただきたいと存じます。私は、文武両道、均衡の予算でなければならないというふうに思うのでございまして、文化同様、スポーツの振興の面においても、予算的に十分対処していただきますことを要望する次第でございます。

4 番目には、地方交付税の追加増額についてでございます。具体的な対応が見られておりません。予算審議の中では、その場合には積立金等で運用することが明らかにされました。私はこの点については納得はいたしません。地方交付税の増加があった場合には、その増加に従いまして、即刻補正予算を組んで、道路、福祉、スポーツの振興費に充てていただきたいと思うのでございます。そして、予算ができるだけ100%の執行ができるように、そし

て繰越金を多く出すことを自慢することのないように、ぎりぎりの精いっぱい
の財政運営に当たっていただくことを要望いたしまして、私の賛成討論を
終わりたいと思います。よろしくお願いいたします。

◎議長（福原 勤君） 以上で辻田 実君の討論を終わります。

以上で通告者による討論を終わりますが、通告をしない議員で討論はあり
ませんか。

18番日下君敏君。

（18番議員日下君敏君登壇）

◎18番（日下君敏君） 私は、日程第6、議案第1号乃至議案第8号に関
し賛成討論をいたすものであります。特に、議案第1号及び第2号平成4年
度館山市一般会計及び同年度館山市国民健康保険特別会計予算について簡単
に意見を申し述べたいと思います。

平成4年度の一般会計当初予算が144億2,000万余を組んでございます。
対前年度当初予算比で増加11.9%、金額にいたしまして約15億円余の増加と
いうことでございます。これがこの予算額が多いか少ないかはいろいろ議論
のあるところだと思いますが、私はこれを率直に積極的な予算と評価いたす
ものであります。この地方公共団体の各単年度の予算額は、単に長期的な観
点から見るべきで、その地方公共団体が有する主要事業のあるなしで、単年
度で特別に大きくなる場合があるし、さらにそういう事業が終わりますと
小さくなるということもある。ですから、長い目で見るところと思ひ
ますが、単に額が多ければ多いということではなかろうと存ずるところであ
ります。そうして一般的に申し上げれば多い方がよろしいわけでございま
して、この144億円余の平成4年度の予算を見た場合、私はこれを積極的な予
算として評価いたすものであります。

次に、この4年度の予算は、主要施策がそれなりに盛り込まれておると評
価いたすものでございます。館山市が念願でございました館山地方公共下水
道事業、本年度よりいよいよ実施に移され、特別会計が設置いたされました。
また西口の問題、さらには館山市営の第3次拡張事業及び三芳水道企業団の
第2次拡張事業、上下水道の事業等々、さらには南房総広域事業等々、そう

いう重要施策がしっかりと盛り込まれておる予算であると存ずるところでございます。

反面こういう経済面ばかりでなく、ただいまいろいろお話も出ましたが、私は文化面についてもよくその措置がなされておると存ずるわけであります。城山公園の整備、さらには今年度復活いたしました薪能について、高く評価いたすものであります。私は、こういう芸能というものは本来赤字であって仕方がないものであろうと存ずるものであります。日本古来の歌舞伎についても、これはそのまま歌舞伎だけを興行いたすれば赤字であります。しかしながら、日本文化を守るため、日本芸能を守るためにあるわけであります。私はこの能というものも、この館山市のようなひなびたところで、これが毎年行われるということ、こんなひなびたところにも立派な芸能があるなということ、館山市の名を売るためにも私は薪能のようなものは一生懸命やるべきものだと思えます。今回これが教育費の方に移りました。いろいろな面でこれを活用して、館山市の文化発展に寄与していただきたいと存ずるところでございます。

次に、消費税がしっかりと盛り込まれておることでございます。今回の予算では、市民センター等各種施設の使用料乃至手数料につきまして、消費税が賦課されることになりました。消費税はその実施後既に3年を経過いたしまして、国民にしっかりと定着をいたしておるわけでございます。現に法律があって、それに基づいて消費税が実施されている今、これを市の使用料に的確に賦課するということはいたし方がないところであります。法律に基づいてその実施を行われるということは、法治国家の基本でございます。ですから、今年度の予算に消費税が賦課されておるということは、それはそれなりに改定としていたし方がないところの中で評価いたすものであります。

1点だけ国保税について申し上げておきます。要すれば来年度から制度が改正になりまして、人件費の超過負担分が丸々浮くわけであります。その今般の当初の予算を見ますと、しかしながら税額が据え置かれております。しかしながら、私はそういう制度改正において、資金的に緩やかになってお

る。そういう面を踏まえて、県内の他市町村、例えば鴨川市の動向等々に目を向けながら、でき得れば値下げをいたすという方向の中でひとつ検討いただきたいと存ずるところでございます。予算執行につきましては、くれぐれも慎重に行いますことを要望いたしまして、賛成意見といたします。

◎議長（福原 勤君） 他に討論はございませんか。—— 討論なしと認めます。よって、討論を終結いたします。

お諮りいたします。正午を過ぎましたが、最後まで議事を進行したいと思います。これに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

採 決

◎議長（福原 勤君） これより採決いたします。

採決は分割して行います。

まず、議案第1号平成4年度館山市一般会計予算について起立により採決いたします。

本案についての委員長の報告は原案可決であります。

本案を委員長の報告どおり可決することに賛成の諸君の起立を求めます。

（賛成者起立）

◎議長（福原 勤君） 起立多数であります。よって、本案は原案どおり可決されました。

次いで、議案第2号平成4年度館山市国民健康保険特別会計予算、議案第3号平成4年度館山市老人保健特別会計予算、議案第4号平成4年度館山市ユースホステル特別会計予算について一括して起立により採決いたします。

各議案についての委員長の報告は原案可決であります。

各議案を委員長の報告どおり可決することに賛成の諸君の起立を求めます。

（賛成者起立）

◎議長（福原 勤君） 起立多数であります。よって、各議案は原案どおり可決されました。

次いで、議案第5号平成4年度館山市学童災害共済事業特別会計予算、議

案第6号平成4年度館山市下水道事業特別会計予算について一括して採決いたします。

各議案についての委員長の報告は原案可決であります。

各議案を委員長の報告どおり可決することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎議長（福原 勤君） 御異議なしと認めます。よって、各議案は原案どおり可決されました。

次いで、議案第7号平成4年度館山市水道事業特別会計予算、議案第8号平成4年度館山市国民宿舎事業特別会計予算について一括して起立により採決いたします。

各議案についての委員長の報告は原案可決であります。

各議案を委員長の報告どおり可決することに賛成の諸君の起立を求めます。

（賛成者起立）

◎議長（福原 勤君） 起立多数であります。よって、各議案は原案どおり可決されました。

議案の上程

◎議長（福原 勤君） 日程第7、議案第44号平成3年度館山市一般会計補正予算（第8号）を議題といたします。

議案の内容説明

◎議長（福原 勤君） 議案の説明を求めます。

庄司市長。

（市長庄司 厚君登壇）

◎市長（庄司 厚君） 議案第44号平成3年度館山市一般会計補正予算（第8号）につきまして、提案理由を御説明申し上げます。

この内容でございますが、市道5027号線外1路線及び準用河川作名川外1河川の災害復旧工事につきまして、最近の悪天候により一部年度内の完了が困難となりましたので、土木施設災害復旧工事にかかわる繰越明許費として

これらの工事費 1,368万 9,000円を追加し、3,402万 1,000円に変更しようとするものでございます。よろしく御審議のほどお願いいたします。

◎議長（福原 勤君） 説明は終わりました。

質 疑 応 答

◎議長（福原 勤君） これより質疑を行います。

御質疑ありませんか。

神田守隆君。

◎21番（神田守隆君） 災害復旧に係る工事ということで、災害にかかわるものは一刻も早くということが、これは大原則かと思うんです。また悪天候によって工事がおくれるということでもありますけれども、年度内に完工できないということでもありますけれども、これはもう災害にかかわるものは最優先という、こういう原則がまず考えなきゃならないと思うんですが、実際にこの繰越明許費の結果、工事の完了見込みはいつになるのか。その辺をお答えをいただきたいと思います。

◎議長（福原 勤君） 建設部長。

◎建設部長（伊東 衛君） お答えいたします。

4月の初旬が2本、中旬ということですから、15日ぐらいが1本、それから4月の末が1本ということです。これもこれからの天気次第によってはもっと早まると思っております。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 他に御質疑ありませんか。——御質疑なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

委員会付託の省略

◎議長（福原 勤君） お諮りいたします。

本案については委員会の付託を省略したいと思っております。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎議長（福原 勤君） 御異議なしと認めます。よって、本案については委員会の付託を省略することに決しました。

討 論

◎議長（福原 勤君） これより討論を行います。

討論はありませんか。

辻田 実君。

◎26番（辻田 実君） 今質疑の中で明らかにされましたけれども、この災害復旧の繰り越しが再度なったわけでございますけれども、本年度は土木費において道路橋梁費、さらには都市計画費、そして土木施設災害復旧費について既に繰り越しをされておりまして、さらにまた追加されたわけでございます。非常に私はことは多かったと思います。そして、やはり景気が不況になってきたときには、政府等については事業の前倒しとか云々というのがあられるわけでございますので、これはいろんな災害の査定なり、打ち合わせ、そういうものもおくれるので、相手の方もあることはわかりますけれども、やはりことはかなり多かったということを私は十分反省をしてもらいたい。できるだけこうした問題については、繰り越しはしないで、年度内にやる。前倒しするぐらいの勢いをもってやっていただきたいことを私は要望いたします、意見として。これはこれまでのものはやむを得ないと思います。やむを得ないと思いますけれども、やむを得ないでいいということじゃなくて、むしろ逆に私はこういうことはできるだけ避けるように努力してもらいたいことを要望意見をつけまして賛成をいたしたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

◎議長（福原 勤君） 他に討論はありませんか。 — 討論なしと認めます。よって、討論を終結いたします。

採 決

◎議長（福原 勤君） これより採決いたします。

本案を原案どおり可決することに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

◎議長(福原 勤君) 御異議なしと認めます。よって、本案は原案どおり可決されました。

議案の上程

◎議長(福原 勤君) 日程第8、議案第45号人権擁護委員候補者の推薦についてを議題といたします。

議案の朗読を願います。

(書記朗読)

◎議長(福原 勤君) 議案の朗読は終わりました。

議案の内容説明

◎議長(福原 勤君) 議案の説明を求めます。

庄司市長。

(市長庄司 厚君登壇)

◎市長(庄司 厚君) 議案第45号人権擁護委員候補者の推薦について、提案理由を御説明申し上げます。

平成4年5月31日をもって任期満了となります人権擁護委員1名及び平成3年12月20日をもって辞任いたしました人権擁護委員1名につきまして、人権擁護委員法第6条第3項の規定により、候補者の推薦を求められておりますので、引き続き太田博雄さん、新たに鈴木純也さんを最適任者として御推薦申し上げたいと存じます。御賛同賜りますようお願い申し上げます。

◎議長(福原 勤君) 説明は終わりました。

質疑応答

◎議長(福原 勤君) これより質疑を行います。

御質疑ありませんか。— 御質疑なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

委員会付託の省略

◎議長（福原 勤君） お諮りいたします。

本案については委員会の付託を省略したいと思います。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎議長（福原 勤君） 御異議なしと認めます。よって、本案については委員会の付託を省略することに決しました。

討 論

◎議長（福原 勤君） これより討論を行います。

討論ありませんか。—— 討論なしと認めます。よって、討論を終結いたします。

採 決

◎議長（福原 勤君） これより採決いたします。

本案を原案どおり可決することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎議長（福原 勤君） 御異議なしと認めます。よって、本案は原案どおり可決されました。

議案の上程

◎議長（福原 勤君） 日程第9、議案第46号館山市固定資産評価審査委員会委員の選任についてを議題といたします。

議案の朗読を願います。

（書記朗読）

◎議長（福原 勤君） 朗読は終わりました。

議案の内容説明

◎議長（福原 勤君） 議案の説明を求めます。

庄司市長。

（市長庄司 厚君登壇）

◎市長（庄司 厚君） 議案第46号館山市固定資産評価審査委員会委員の選任について、提案理由を御説明申し上げます。

館山市固定資産評価審査委員会委員中、石井隆三さんが平成4年3月31日をもって任期が満了いたしますので、引き続き石井隆三さんを適任と考え選任いたしたく存じます。御賛同を賜りますようお願い申し上げます。

◎議長（福原 勤君） 説明は終わりました。

質 疑 応 答

◎議長（福原 勤君） これより質疑を行います。

御質疑ありませんか。 — 御質疑なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

委員会付託の省略

◎議長（福原 勤君） お諮りいたします。

本案については委員会の付託を省略いたしたいと思います。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎議長（福原 勤君） 御異議なしと認めます。よって、本案については委員会の付託を省略することに決しました。

討 論

◎議長（福原 勤君） これより討論を行います。

討論ありませんか。 — 討論なしと認めます。よって、討論を終結いたします。

採 決

◎議長（福原 勤君） これより採決いたします。

固定資産評価審査委員会委員の選任について同意を求める件は、これに同意することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎議長（福原 勤君） 御異議なしと認めます。よって、固定資産評価審査委員会委員の選任について同意を求める件は、これに同意することに決しました。

議案の上程

◎議長（福原 勤君） 日程第10、議案第47号館山市収入役の選任についてを議題といたします。

議案の朗読を願います。

（書記朗読）

◎議長（福原 勤君） 朗読は終わりました。

議案の内容説明

◎議長（福原 勤君） 議案の説明を求めます。

庄司市長。

（市長庄司 厚君登壇）

◎市長（庄司 厚君） 議案第47号館山市収入役の選任について、提案理由を御説明申し上げます。

本市収入役渡辺 弘君が平成4年3月31日をもって任期満了となりますので、その後任として現財政課長の川上義雄君を適任と考え選任いたしたく、市議会の同意を得ようとするものでございます。よろしくお願い申し上げます。

◎議長（福原 勤君） 説明は終わりました。

質疑応答

◎議長（福原 勤君） これより質疑を行います。

御質疑ありませんか。 — 御質疑なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

委員会付託の省略

◎議長（福原 勤君） お諮りいたします。

本案については委員会の付託を省略いたしたいと思います。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎議長（福原 勤君） 御異議なしと認めます。よって、本案については委員会の付託を省略することに決しました。

討 論

◎議長（福原 勤君） これより討論を行います。

討論ありませんか。 — 討論なしと認めます。よって、討論を終結いたします。

採 決

◎議長（福原 勤君） これより採決いたします。

収入役の選任について同意を求める件は、これに同意することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎議長（福原 勤君） 御異議なしと認めます。よって、収入役選任について同意を求める件は、これに同意することに決しました。

県立地域文化ホール誘致対策特別委員会委員長報告

◎議長（福原 勤君） 日程第11、県立地域文化ホール誘致対策特別委員会委員長報告を行います。

本特別委員会は、昨年6月定例会において、県立地域文化ホール誘致対策について調査するため設置されたものであります。よって、これより本委員

会における調査の概要について委員長の報告を求めます。

県立地域文化ホール誘致対策特別委員会委員長流山源次郎君。御登壇願います。

(県立地域文化ホール誘致対策特別委員会委員長流山源次郎君登壇)

◎県立地域文化ホール誘致対策特別委員会委員長(流山源次郎君) 去る平成3年第2回定例会において設置されました県立地域文化ホール誘致対策特別委員会における調査の経過等について御報告申し上げます。

本委員会については、県がさわやかハートちば5か年計画の中で、南地域への文化ホール建設を打ち出したことに伴い、活力ある文化福祉都市づくりを推進するための文化的施設整備に関する諸問題について調査することを目的として、9人の委員をもって設置されたものであります。今日まで委員会3回招集、協議会を1回開催し、県の方針並びに市の取り組み方などについて説明を求め、状況の把握をするとともに、本市への誘致実現について市当局に対し、指摘、要望等を行ってきたところであります。

さらにその間、旭市に東総文化会館の現地視察を行ったほか、特別委員会設置と同時に、本議会で可決されました意見書提出に当たっては、正副委員長が同行し、直接知事に要望するとともに、内房4町村の議会に本市への誘致の協力方を要請、県議会議長等への陳情、また住民の会等との話し合いに出席するなど、議会の立場から特別委員会設置の意を体しまして、積極的に誘致運動に参画してまいりました。

今定例会の冒頭、市長の施政方針の中で、県の来年度予算案に県立南地域文化ホールの調査費が盛り込まれ、その建設予定地として館山市への位置づけが示されたと報告されております。このことは、まさに市民と行政と議会が一体となって運動を展開した結果であると考えております。このたび館山市への建設の位置づけが示されたことにより、委員会設置の目的を達し得たものと認め、ここに特別委員会としての調査を終了いたしたいと存ずるところであります。

なお、今後計画が具体化されるにあたり、議会、市民の要望等を十分反映されるよう強く要望いたしまして、県立地域文化ホール誘致対策特別委員会

の委員長報告といたします。

◎議長（福原 勤君） 以上で委員長の報告を終わります。

質 疑 応 答

◎議長（福原 勤君） ただいまの委員長報告について御質疑ありませんか。

— 御質疑なし認めます。よって、質疑を終結いたします。

討 論

◎議長（福原 勤君） これより討論を行います。

討論ありませんか。— 討論なしと認めます。よって、討論を終結いたします。

採 決

◎議長（福原 勤君） お諮りいたします。

ただいまの委員長の報告を了承することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎議長（福原 勤君） 御異議なしと認めます。よって、委員長の報告を了承することに決しました。

館山駅周辺整備調査特別委員会委員の補欠選任

◎議長（福原 勤君） 日程第12、館山駅周辺整備調査特別委員会委員の補欠選任を行います。

委員会条例第8条の規定により、飯田義男君を館山駅周辺整備調査特別委員会委員に指名したいと思います。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎議長（福原 勤君） 御異議なしと認めます。よって、飯田義男君を館山駅周辺整備調査特別委員会委員に選任することに決しました。

閉 会 午後零時37分

◎議長（福原 勤君） 以上で本定例会に付議されました案件は議了いたしました。

よって、これにて第1回市議会定例会を閉会いたします。

◎本日の会議に付した事件

- 1 議案第1号乃至議案第47号
- 1 請願第3号及び請願第4号
- 1 継続審査について（請願第5号、請願第6号）
- 1 日程追加・発議案第1号
- 1 県立地域文化ホール誘致対策特別委員会委員長報告
- 1 館山駅周辺整備調査特別委員会委員の補欠選任

地方自治法第123条第2項の規定により署名する。

館山市議会議長 福 原 勤

館山市議会議員 宮 沢 治 海

館山市議会議員 石 井 輝 久